

平成 21 年度

財団法人いわき市教育文化事業団決算書

(抜粋)

自 平成 21 年 4 月 1 日

至 平成 22 年 3 月 31 日

財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事 業 報 告 書	----- 1
・ 決 算 報 告 書	----- 11

事業報告書

目 次

概 況	ページ
1 総括事項 -----	3
2 議決事項 -----	4
業 務	
1 文化財部門	
(1) 文化財発掘調査 -----	5
2 施設部門	
(1) いわき市アンモナイトセンター -----	5
(2) いわき市考古資料館 -----	5
(3) いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家 -----	6
(4) いわき市暮らしの伝承郷 -----	7
(5) いわき市生涯学習プラザ -----	8
3 職員に関する事項	
(1) 事務局 -----	9
(2) 教育文化施設 -----	9

概 況

1 総括事項

平成21年度の当財団の運営は、厳しい経済状況を反映し、文化財部門における事業量の落ち込みと、施設部門におけるマイナスシーリングによる指定管理料減少などの要因により、当初から約1,100万円の収入不足と厳しい状況が予想されていました。

このため、役職員一丸となり、人件費の削減や事務の簡素効率化による節減・削減、管理経費の節減に努めるとともに、市内外における文化財調査の受注活動を積極的に推進してまいりました。この結果、最終的には約1,000万円を越える黒字決算となりました。

文化財部門では、市内における調査件数減少と規模の縮小化が続いていますが、平成21年度は市内の発掘調査に加えて、緊急雇用創出基金事業および相馬市・南相馬市・楡葉町など相双地区での発掘調査や市史関係事業などを受託したことから、受託収入予算の執行率が99%となるとともに、平成20年度を大きく越える事業量を受託することとなりました。

施設部門では、アンモナイトセンター、考古資料館、草野心平記念文学館、暮らしの伝承郷、生涯学習プラザ、草野心平生家の6施設について、新たに平成25年度までの5か年間の指定管理者に指定され、それぞれの施設の管理・運営にあたってまいりました。常に自己評価を行うとともに、市民ニーズを的確に捉えた事業を実施し、利用者の安全安心と接遇の向上に努めてまいりました。この結果、4施設で利用者の増を達成することができましたが、2施設では利用者の減少に歯止めをかけることができませんでした。

普及活用事業は、当財団職員の有する専門的知識を有償提供し、収益を計ろうと平成20年度から始まった事業で、市内の公民館、社会福祉施設事業団、いわき地区高等学校地理歴史公民科研究会、FMいわき、民間団体などを対象に実施しました。

研修では、質の高い専門性とサービスの確保、接遇の向上、安全安心な施設環境の確保のため、県主催の学芸員研修、市観光ビューロー主催の接遇研修、生涯学習プラザ主催のAED研修、各種学会などへ積極的に参加しました。

啓発広報事業では、文化財部門では継続的に発掘調査が行われている餓鬼堂横穴墓群の成果展を、施設部門では生涯学習プラザにおいて4施設共同企画展を開催し、館及び事業の広報を行いました。

運営改善については、行動計画の具現に取り組むとともに、見直しや新たな提案などを行ってまいりました。また、新たな指定管理者施設の受託をめざし、情報収集活動を積極的に行っております。

2 議 決 事 項

理事会	議案番号	件 名	提 出 年 月 日	議 決 年 月 日
第1回	第1号	平成20年度決算の認定について	平成21年5月26日	平成21年5月26日
第2回	第1号	報酬、給与、退職手当及び旅費等に関する規程の改正について	平成21年5月29日	平成21年5月29日
第3回	第1号	報酬、給与、退職手当及び旅費等に関する規程及び定年退職者の再雇用に関するの改正について	平成21年12月1日	平成21年12月1日
第4回	-	(報告事項のみ) 平成21年12月22日開催	-	-
第5回	第1号 第2号 第3号 第4号	報酬、給与、退職手当及び旅費等に関する規程の改正について 就業規則の改正について 平成22年度事業計画について 平成22年度収支予算について	平成22年3月25日	平成22年3月25日

業 務

1 文化財部門

(1) 文化財発掘調査

平成21年度の当初計画は12件の事業を予定したところ、受託した事業は16件になった。事業は、いわき市内は本調査6件(遺物整理及び報告書作成含む)、試掘調査1件、遺物整理報告書作成5件の12事業である。他市町村では、本調査2件(遺物整理及び報告書作成含む)、試掘調査1件、遺物整理1件の4事業である。事業の推移により3件の契約金額の減額変更を行った。

主な成果は、市内の本発掘調査では、縄文早期の竪穴住居跡や石器工房跡を検出した犬松沢遺跡。3か所を調査し、人骨と副葬品を発見できた餓鬼堂横穴墓群。竪穴住居跡が多数発見できた泉地区の御前田A遺跡・泉町A遺跡・泉町C遺跡。

報告書の刊行は、前年度及び本年度調査した遺跡を主にいわき市関係が5冊、他市町村では2冊を刊行した。

2 施設部門

(1) いわき市アンモナイトセンター

平成21年度の入館者総数は、23,568名で昨年度比2,350名の増となった。このうち、主な事業である「一般体験発掘」の参加人数は、10,208名で135名の減、「特別体験発掘」の参加人数は3,715名で、893名の増のとなり、体験発掘総数では13,923名で758名の増となっている。

久之浜・大久地区の自然を再認識する「親子自然探訪教室」は、平成18年度から毎月開催しており、参加者からは好評を得ている。

さらに、小中学校の夏・冬休み期間に合わせ企画展を2回開催しているが、夏休み企画展「いわきの琥珀展」は6,864名で昨年度比で876名の増、冬休み企画展「アンモナイトセンター産出化石展」は393名で昨年度比で279名の減であった。

また、公開シンポジウムは「いわきの地層とアンモナイト」を開催し、143名の参加を得た。

(2) いわき市考古資料館

平成21年度は、利用者総数が14,053名と前年度比581名の増となり、初めて14,000名台となった。内訳は、入館者が12,383名で前年度比941名の増、青空講座・出前講座など入館以外の利用者が2,030名で前年度比360名の減である。

企画展は、当初予定の企画展3回、ミニ企画展1回のほか、特別展1回、共同企画展1回、そ

して美術館との共催展1回の計7回開催した。第2回企画展「写真で綴るいわきの指定文化財展」は5か年のシリーズ企画で、初年度は建造物に焦点をあてた。いわき市立美術館との共催展として開催した「いわきぐるっとコレクション」は、来館が初めてという美術ファンが数多く訪れ、新たな層の発掘にもつながった。

講座・講演会は、企画展に合わせた講演会や展示解説会、「中田横穴青空講座」、「自由研究に挑戦しよう」、「ボランティア養成講座」など、9講座・15回開催した。

体験学習会は、4回18日間開催し、延べ1,036名が勾玉づくりや埴輪づくりなどを体験した。

体験学習施設として、体験学習会開催や団体による体験学習の要請に対応するため、今年度も24名の登録ボランティアに47回延べ189名の協力を得た。

館勤務職員一丸となって、接遇の向上を図るとともに、開館以来12年を経過し、建物本体についても大規模な壁面改修工事が行われ、ソフト・ハード両面で、市民に愛され親しまれる施設づくりに努めた。

(3) いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

平成21年度は、春、夏、秋と3つの企画展を実施した。

春の企画展「草野心平の書画展」では、多彩な創作活動を展開した草野心平の書画作品を、「雲」「富士山」「母岩」等のモチーフごとに展示した。また、関連する詩篇についても併せて展示した。

夏の企画展「くどうなおこの『のはらうた』展」では、詩人・工藤直子の「のはらうた」を、保手浜孝画『版画のはらうた』原画で紹介した。また、併設展示として、工藤直子文・保手浜孝画の最新作『おいで、フクマル』の絵本原画を展示した。工藤直子氏を講師に、「くどうなおこの『のはらうた』展」記念講演会を開催した。

秋の企画展「ふくしまの文学展 浜通り編」は、こおりやま文学の森資料館(郡山市)と埴谷・島尾記念文学資料館(南相馬市)の協力を得て、福島県浜通り地方にゆかりの文学者50名を、顔写真、略歴と作品解説、関連資料で紹介した。福島大学人間発達文化学類教授澤正宏氏を講師に、福島県の文学風土の特性と山村暮鳥、草野心平を中心とした講演会「ふくしまの文学」を開催した。なお、連携事業として、こおりやま文学の森資料館では「ふくしまの文学 中通り・会津編」が開催された。

その他の企画展としては、いわき地域文学者の生誕月にあわせたスポット展示を行った。

追加事業として、おたまじゃくしがカエルになる季節にあわせて、心平の蛙をモチーフとした詩をパネルで展示する「かえるの詩のパネル展」を開催した。

普及活動では、アリオスと共催したコンサートと、いわき市立美術館と共催した「いわき市立美術館 いわきぐるっとコレクション」を開催し、市民に文学館に親しんでもらう良い機会となった。また、恒例となったサマーナイト期間中のコンサートやクリスマスのえほんコンサートなどは多くの参加者があり、文学・芸術活動の交流の場となった。

講演会や「文学館カレッジ」「朗読祭」の他、「詩作講座」等も回数を重ねて開催し、文学研究成果の公表や創作活動の場にふさわしい事業を展開した。

年間入館者数は26,365名で、昨年度比4,038名の増で、新聞連載やテレビ・ラジオ等への取材協力を積極的に行い、文学館の様々な企画はマスコミに取り上げられた。

いわき市草野心平生家

草野心平生家は、生家ボランティアが解説を行っており、入館者数は3,214名で、308名の増であった。ワークショップ「カエルの折り紙をつくろう」では生家ボランティアが講師を務め、市民とボランティアの交流の場ともなった。夢想無限の会と共催で開催した「心平忌」では、小川地区小学校4年生と中学校2年生から詩を募集し「草野心平 ふるさとの詩 けるるん くっく」発表会を開催した。「心平誕生日の市民朗読祭」や「草野天平 音楽の集い」等の事業では、心平や天平を偲ぶことができ好評を博した。

(4) いわき市暮らしの伝承郷

平成21年度の入園者数は、開園日数が313日で27,361名と昨年度より5,557名の減となった。全体的には小学校見学数が新型インフルエンザの影響からキャンセルが続いたためと考えられる。

平成21年度は4回の企画展を実施した。第1回は「捕鯨絵巻に描かれた町と村」で、市民に目に触れる機会の少ない、いわき市指定有形文化財「紙本著色磐城七浜捕鯨絵巻」を展示し、七浜に所在する村落と村民のなりわいを概観した。第2回は「写真で綴る昔のいわき ~平地区~」では、昭和30年代前と現代との対比を行い、当時使用されたカメラも展示した。第3回はいわき市立美術館開館25周年記念共催企画展として「いわきぐるっとコレクション ニューアートシーン・インいわき出品作家による 私が選ぶいわき市立美術館 ザ・コレクション」のひとつを、当園で開催した。第4回は「伝承郷10周年の歩みポスター展」を当園記念事業として開催した。いずれも関連事業として各企画展ごとに講座・展示解説会を実施した。また、当園を活用いただき、地元鹿島歴史の会の協力、「ロビー鹿島展」を年末年始に開催した。「御代の大仏に迫る」と題して、蓮弁台座に刻字される地名・人名等の調査結果を発表し、鹿島住人のルーツ探しの資料を展示した。

体験学習は、年齢層や年中行事を踏まえ、「民話の語り」や技術を要する「草木染め」「正月飾り作り」など内容のバランスを考慮し、30回開催し、また学校・子供会等の予約による臨時14回を実施し、好評を得ることができた。

伝承郷講座は、館長講座(22回)を含め4回実施し、それぞれのジャンルで活躍されている方々により「大國魂神社の大和舞」「スズメバチの生態」「竹」について解りやすく講話いただいた。

伝承郷行事では、農作業の体験はじめ、伝統芸能に触れていただいた。

小学生を対象としたキッズ民話語り部教室は、今年度第14・15期を迎え、前・後期の発表会では計216名もの聴衆の前で成果を披露することができた。

今年度から市民の文化活用場として定着していた企画展示室の貸出が有料となったことで、利用減が危惧された「市民展」開催は、利用者の利便を重視して接した結果、昨年度同様16回の利用があり、6,951名の観覧者となった。

また、田・畑・ガイド等のボランティア研修会を開催し、市民やボランティアに学習の場を提供

してきた。さらに、磐城手業の会や夜間開館の許可を得ての篠笛演奏のいわき濤笛会、いわき地域学会等の各種団体との共催事業も展開した。

今後は、季節的に入園者数が落ち込む時期の事業展開を考慮するとともに、積極的にPRし、来園者の増員を図ってまいりたい。

(5)いわき市生涯学習プラザ

平成21年度の生涯学習プラザ利用者数は、昨年度より21,492人少ない128,593人でしたが、平成14年の開館以来120万人を超えました。また、社会教育関係団体の利用は年々増えており、延べ2,461団体の利用がありました。

利用者の満足度をさらに高めるため、サービス向上委員会による接遇研修をはじめ、毎朝の「あいさつ運動」「朝の7チェック」をとおして接客マナーの向上をはかるとともに、多様化する市民の学習意欲に応えるため、独自性のある講座や施設の特徴を活かした事業を実施するなど、創意工夫をこらした事業運営に努めました。

平成21年度は、これまでの事業に加え、自主事業として生涯学習プラザで活動する団体・サークルによる各種体験プログラムを新たに企画・提供することによって、市民の生涯学習の多様性に応えました。

ひとつは市内の小・中学校の「生活科」や「総合的な学習の時間」の中で児童・生徒がサークル活動に参加・体験する企画。もう一つは一般市民を対象として実施する企画を提供しました。また、ITボランティアリーダーによる身近なPC講座や遊びと憩いの広場とルーフガーデンを活用した子育てボランティアによるさまざまな企画「子どもと遊ぼう」を毎月1回実施しました。

このように、ボランティアが自主的に参加できる学習プログラムを開発し、さまざまな視点から各種事業(62講座)を実施しました。また、いわきヒューマンカレッジ(市民大学)や生涯学習フェスティバルをとおして、全市的な市民の交流を深めるとともに、さらなる生涯学習の推進に努めました。さらに、市単独緊急雇用創出基金事業「いわきまなびあいバンク作成事業」を受託し、生涯学習情報をホームページ上に一部公開しました。しかし、ITサポートセンター事業は、1,076件のITに関する相談に応えましたが、平成21年度をもって事業廃止となりました。

ホームページによる情報発信のほかに、情報紙「プラザだより」を毎月発行し、地元商店会との連携による街路特設掲示板に掲示することで、地域との関係をより一層深め、利用者懇談会やアンケート調査によって利用者のニーズを的確に把握し、市民の目線に立った効率的かつ効果的な管理運営に努めました。

3 職員に関する事項

平成22年3月31日現在

(1) 事務局

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区 分	事務局長	事務局次長	係 長 主任研究員	副主任研究員	事務主任	主 事	嘱託職員	日々雇 用職員	計
事 務 局	1	2	-	-	-	-	-	-	3
企画管理係	-	-	1	-	-	1	-	1	3
調査第一係	-	-	3	1	-	-	-	-	4
調査第二係	-	-	1	1	-	-	-	24	26
計	1	2	5	2	-	1	-	25	36

(2) 教育文化施設

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区 分	館 長 所 長	副 館 長 専門学芸員	係 長 主任研究員 主任学芸員	主 査 副主任学芸員	事務主任 学 芸 員	主 事	嘱託職員	日々雇 用職員	計
アンモナイト センター	1	-	-	-	-	-	-	2	3
考古資料館	(1)	-	(2)	(1)	-	(1)	-	-	(5)
文 学 館	1	2	-	2	-	-	-	2	7
伝 承 郷	1	-	-	1	1	-	3	2	8
生涯学習 プラザ	1	1	1	2	-	1	-	9	15
計	4(1)	3	1(2)	5(1)	1	1(1)	3	15	33(5)
合 計	5(1)	5	6(2)	7(1)	1	2(1)	3	40	69(5)

決 算 報 告 書

目 次

	ページ
1 貸借対照表	13
2 正味財産増減計算書総括表	14
3 財産目録	15
4 財務諸表に対する注記	16
5 決算監査報告について	18

貸借対照表

平成22年3月31日現在

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
資産の部			
1 流動資産			
現金預金	83,545,820	77,972,324	5,573,496
未収金	19,627,100	10,882,850	8,744,250
前払金	44,503	151,478	106,975
未経過通信運搬費	416	416	0
未経過租税公課	6,800	6,400	400
製品	168,004	7,196,667	7,028,663
流動資産合計	103,392,643	96,210,135	7,182,508
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) その他の固定資産			0
器具・備品	708,742	792,093	83,351
電話加入権	449,904	449,904	0
投資有価証券	35,700	59,500	23,800
その他固定資産合計	1,194,346	1,301,497	107,151
固定資産合計	11,194,346	11,301,497	107,151
資産合計	114,586,989	107,511,632	7,075,357
負債の部			0
1 流動負債			0
預り金	784,799	712,169	72,630
前受金	0	8,485,000	8,485,000
未払金	42,435,456	37,006,333	5,429,123
未払消費税	5,653,600	677,500	4,976,100
未払法人税等	72,000	72,000	0
流動負債合計	48,945,855	46,953,002	1,992,853
2 固定負債			0
固定負債合計	0	0	0
負債合計	48,945,855	46,953,002	1,992,853
正味財産の部			0
1 指定正味財産			0
受取出捐金	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	0
2 一般正味財産			0
一般正味財産合計	55,641,134	50,558,630	5,082,504
正味財産合計	65,641,134	60,558,630	5,082,504
負債及び正味財産合計	114,586,989	107,511,632	7,075,357

正味財産増減計算書総括表

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	116,200	116,200	0
事業収益	425,925,620	382,205,030	43,720,590
a 文化財調査事業収益	188,266,050	137,931,150	50,334,900
b 施設管理運営事業収益	236,839,000	243,834,000	6,995,000
c 出版事業収益	667,570	228,880	438,690
d 普及活用事業収益	153,000	211,000	58,000
受取寄付金	0	0	0
雑収益	1,679,305	527,775	1,151,530
経常収益計 (ア)	427,721,125	382,849,005	44,872,120
(2) 経常費用			
事業費	409,699,879	374,860,523	34,839,356
a 文化財調査事業費	163,863,023	120,392,374	43,470,649
b 施設管理運営事業費	238,686,119	254,046,370	15,360,251
c 出版事業費	7,142,190	420,151	6,722,039
d 普及活用事業費	8,547	1,628	6,919
管理費	12,938,742	15,738,438	2,799,696
a 一般管理費	12,776,585	15,105,518	2,328,933
b 研修費	162,157	557,740	395,583
c 啓発広報費	0	75,180	75,180
経常費用計 (イ)	422,638,621	390,598,961	32,039,660
当期経常増減額 (ア-イ)	5,082,504	7,749,956	12,832,460
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計 (I)	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計 (オ)	0	0	0
当期経常外増減額 (I-オ=カ)	0	0	0
当期一般正味財産増減額 (キ)	5,082,504	7,749,956	12,832,460
一般正味財産期首残高 (ク)	50,558,630	58,308,586	7,749,956
一般正味財産期末残高	55,641,134	50,558,630	5,082,504
指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	116,200	116,200	0
一般正味財産への振替 (コ)	116,200	116,200	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高 (ケ)	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高	10,000,000	10,000,000	0
正味財産期末残高	65,641,134	60,558,630	5,082,504